

## 第1回苫小牧市多文化共生指針策定準備会議 議事録

○成田室長 それでは、皆さんおそろいになりましたので、定刻より前でございますけども、ただいまより、第1回苫小牧市多文化共生指針策定準備会議を開会させていただきます。本日は、お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

まずは、初めに、委員の皆様にご挨拶をさせていただきたいと思っております。本来でございますならば、市長が挨拶をさせていただくというところでございますが、あいにく他の公務の関係で本日は欠席となっております。そのため、総合政策部長の町田から代理で挨拶させていただきます。

皆様の席の前まで参りますので、お名前をお呼びいたしますので、その場でご起立の上、お受け取りください。阿部孝史様。

○町田部長 阿部孝史様。苫小牧市多文化共生指針策定準備会議委員を委嘱します。令和5年5月22日、苫小牧市長、岩倉博文、代読。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○成田室長 五十嵐啓子様。

○町田部長 どうぞよろしくお願い申し上げます。お世話になります。

○五十嵐委員 よろしく申し上げます。

○成田室長 奥村訓代様。

○町田部長 どうぞよろしくお願い申し上げます。お世話になります。

○奥村委員 よろしく申し上げます。

○成田室長 小田島道朗様。

○町田部長 どうぞよろしくお願い申し上げます。お世話になります。

○成田室長 笠原健太郎様。

○町田部長 どうぞよろしくお願い申し上げます。お世話になります。

○成田室長 グェン・バン・チョン様。

○町田部長 どうぞよろしくお願い申し上げます。お世話になります。

○グェン委員 申し上げます。

○成田室長 瀬川恵様。

○町田部長 どうぞよろしくお願い申し上げます。お世話になります。

○成田室長 千寺丸洋様。

○町田部長 どうぞよろしくお願い申し上げます。

○千寺丸委員 よろしく申し上げます。

○成田室長 高田雄二様。

○町田部長 どうぞよろしくお願い申し上げます。お世話になります。

○成田室長 若山薫里様。本日代理出席の小林様。

○町田部長 どうぞよろしくお願い申し上げます。お世話になります。

○成田室長 なお、本会議には、多文化共生分野の有識者でございます田村太郎様にもご

出席いただいております。

○田村氏 よろしくお願ひします。

○町田室長 田村様には、市政に深く関わり、施策に直結する支援を担う本市の都市再生アドバイザーとしてご活躍をいただいております、今後も本会議にご参加させていただくということになっておりますので、よろしくお願ひいたします。

また、事務局であります未来想像戦略室に所属している外国籍の職員にも、本会議では外国人住民の立場から意見交換に参加させていただきます。

奥のほうから、アメリカ出身のハニック・リリーと中国出身の王慶娟です。よろしくお願ひいたします。

○ハニック・王 お願ひします。

○成田室長 それでは、総合政策部長から一言ご挨拶申し上げます。

○町田部長 皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、第1回苫小牧市多文化共生指針策定準備会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、今、委嘱状をお渡ししましたが、委員を引き受けていただきまして、大変感謝申し上げますところでございます。

この準備会議におきましては、本市において、外国人住民が増加をしている背景がある中、日常的に外国人と共生する環境整備の一環として、令和6年度に苫小牧市多文化共生指針の策定を目指すに当たりまして、指針内容の検討を進めるための協議を行う場として、本日が第1回目の会合ということでございます。

今回は、ふだんから外国人との関わりが多く、様々な立場でご活躍をされているメンバーの方々にお集まりをいただいたところでございます。また、多文化共生分野の苫小牧都市再生アドバイザーとして、有識者の立場から市政にご支援いただく田村先生にもご参加をいただいているところでございます。

外国人受入れに関する国の法制も変化する中、本市においても外国人住民がこの5年で倍増し、1,000人を超え、国籍や在留資格の多様化が見られるところでございます。さらには、人材不足から企業の外国人の受入れが進んでおり、外国人が地域の生活者として、日本人とともに日常的に共生できる環境整備が必要であるというふうに考えているところでございます。

市としても、従来の国際交流の視点に多文化共生の視点を加えた形でまちづくりを進めてまいりたいと考えております。指針策定につきましては、道内において先陣を切る取組となりますが、指針の考え方、方向性、あるべき機能等について、本日参加の皆さんには、それぞれの立場から忌憚のない活発なご意見をいただくことをお願ひを申し上げまして、以上、簡単ではございますが、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願ひします。

○成田室長 それでは、会議に入らせていただきます。会議は次第に沿って進めてまいりますが、座長の選任まで私が進行を務めさせていただきますので、よろしくお願ひいたし

ます。

それでは、次第に従い、座長を選任したいと思います。

本会議設置要綱第6条に基づきまして、本会議に座長を置くことになっております。また、座長は、委員の互選により決定することとなっております。この件に関し、事務局案としてご提示したいと思いますのですが、いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

○各委員 異議なし。

○成田室長 それでは、事務局案としては、北海道国際交流・協力総合センター多文化共生チーム、小田島課長を座長に推薦しますが、いかがでしょうか。（拍手）

○成田室長 それでは、小田島課長を座長に決定いたします。

ここからは設置要綱第6条第3項に基づきまして、座長に進行をお願いいたします。

では、よろしくをお願いいたします。

○小田島座長 ただいま座長にご指名いただきました、北海道国際交流・協力総合センターの小田島と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

簡単に自己紹介をさせていただきたいと思いますが、道の外郭団体で、国際交流・協力総合センター、道庁別館のほうにございます。今年で、実は設立から45周年になるのですが、我々、当初、北方圏センターという名称で活動しておりまして、この北海道の寒くて長い冬の生活を豊かにしましょうという、そういう構想の下に、北米ですとか北欧の文化を道民の皆様に紹介しようというような感じにしておりました。

国際交流、国際協力、何十年もやってきたのですが、やはり10数年前から外国人住民の方、非常に本来増えてきておりまして、多文化共生という事業も10年以上本格的にやっているところです。それで、我々の事業の一つとして、隣にお座りの田村さんにも毎年北海道まで足を運んでいただいて、道内での多文化共生を推進していこうということで講演会などを実施しております。

今回の準備委員会に携わらせていただきまして、各分野が専門の方、現場で活躍されている方多数いらっしゃると思いますので、ぜひ皆様の意見をうまくこの指針のほうに反映させていただくお手伝いできればというふうに考えていますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、時間も限られていますので、進めさせていただきます。

次第の3、都市再生コンセプトプラン、指針につきまして、事務局のほうから、スケジュールと併せてご説明いただければと思います。よろしくをお願いいたします。

○青山副主幹 それでは、事務局のほうから説明させていただきたいと思います。

まず初めに、都市再生コンセプトプランについて説明させていただきたいと思っています。概要版とA3の1枚物がお手元にあるかと思いますが、本日は時間の関係上、A3のものを使って簡単に説明させていただきたいと思っています。A3のカラー物になっていますが、皆さん、お分かりになりますでしょうか。

こちらの都市再生コンセプトプランとは、令和3年3月に策定したもので、交流人口の

増加を目標とし、環境と産業が共生する持続可能な都市の実現というコンセプトになっております。このコンセプトは、本市の各施策に反映していくことを目的としております。今後10年程度でこの都市再生コンセプトプランの考え方を市民の皆様に周知していきたいというふうに考えております。このコンセプトプランの目標に向けた四つの促進要因の一つに、人材育成、多文化共生というものを位置づけてあることから、今回の指針策定の運びとなっていますので、皆様にはその点は知っておいていただきたいと思っておりますので、説明させていただきました。

それでは、こちらの第1回準備会議の冊子があると思えますけど、これに沿って簡単に説明していきたいと思えますので、お手元に用意していただけるでしょうか。

まず、2ページ目を開いていただきたいと思えます。こちらの2ページですけれども、多文化共生指針の定義が載っております。こちらの定義は、総務省から示されておるものになっております。こちらの定義が実現されると、多様な人の集まりになることで新しい出会いや発見、創造のイノベーションなどを生み出す原動力になると言われております。それが市民やまちの成長につながると言われております。

次に、3ページ目をご覧ください。この指針策定の背景と目的を載せてあります。背景としては、後ほどもう少し詳しく説明させていただきますけれども、本市においても在住外国人が急増しており、その中でも留学生や働く外国人の増加が多く見られているということと、目的については、冒頭に説明させていただいた都市再生コンセプトプランを具現化することで、本市の課題解決と成長戦略の一つとして、外国人材活躍社会の実現と地域の生活者としての日常的に外国人と日本人が共生する社会の在り方を示すためのものとなります。

続いて、4ページ目ですけれども、こちらには多文化共生の方向性として、2020年に改正された地域における多文化共生推進プランの概要が示されております。ここに記載されている四つの大きな施策が今後の本市の指針策定時のベースになるものと考えておりますので、こちらのほう目を通していただければと思えます。

続いて、苫小牧市の外国人の状況について説明したいと思えます。6ページ目をご覧ください。本市の外国人住民数、先月末時点で1,102人となっており、人口の約0.66%となっております。5年前と比較して市の人口が減少しているのに対し、外国人住民の数は大きく増加しているということがお分かりになると思えます。この近年のペースで外国人の住民が増加すると、2025年には外国人割合が1%を超えて、2030年には現在の4倍の人数になるという可能性を示してあります。

次の7ページ目をご覧ください。こちらでは、道内の外国人住民の状況を示しております。令和5年の3月末時点ですけれども、本市の外国人住民数は全道で6番目となっておりますけれども、割合としては低い状況となっております。

続いて、8ページ目を見ていただきたいと思えます。本市の外国人住民の国籍、在留資格別の特徴を示してあります。国籍の特徴としては全国の状況と類似しており、住民数の

多い順にベトナム、中国、韓国、インドネシアとなっております。在留資格の特徴として、全国の割合と違って、苫小牧市は特徴的に言うと、働く外国人が多く、技能実習生や特定技能が多いというのがこちらの資料からお分かりになると思います。

続いて、9ページ目をご覧くださいと思います。国籍と在留資格をそれぞれ掛け合わせた特徴が見られる形となっております。これによると、国籍によつての在留資格の特徴が様々であることや、技能実習、特定技能など単身者が多いというフェーズであるということが読み取れるのではないかなと思っております。

続いて、10ページ目、11ページ目ですが、こちらには市内の地域別の外国人の様子をまとめております。西部、中央、東部と、全市内に外国人が在住している形になっておりますが、国籍、在留資格の特徴が地域によって異なると読み取れると思っております。

続いて、13ページ目をご覧くださいと思います。こちらは、令和4年度に実施した調査になります。調査内容としましては、市内外国人雇用事業所を対象にしたアンケートやヒアリング、北洋大学の留学生に向けたアンケート、あと、国際交流サロンの外国人相談窓口についての調査や特徴について載せてあります。詳しい内容ですけども、14ページ目をご覧くださいと思います。

14ページ目に、外国人雇用を行っている事業所55か所にアンケート調査を行った際に寄せられた声を一部抜粋してあります。ちなみに、55か所にアンケートを行って回答いただいた事業所は36か所となっております。その中で、企業から市に対しての要望として、在留外国人に対して日本語教育支援だとか行政手続支援、生活支援というものを望む声が寄せられておりました。

次、15ページ目を見ていただきたいと思っております。こちらは、先ほど説明した外国人雇用事業所に対して行ったヒアリングでの企業の声を抜粋しております。こちらにも、要望としては行政が関わる管理団体の設立、ごみの分別、冬の生活などの生活オリエンテーションの実施、情報発信の充実、外国人同士が交流できる場の提供などが上げられておりました。課題としては、日本語能力の問題や住民確保の問題、日本文化や習慣などの理解が上げられております。

続いて、16ページ目を見ていただきたいと思っております。こちらは、市内唯一の4年制大学である北洋大学の留学生を対象にアンケートを取った結果となっております。この調査結果から見ると、地域とのつながりを持つことで学生生活の充実や卒業後の苫小牧市への定着につながる可能性があるのではないかなという結果になっていると思っております。

17ページ目を、続いて見ていただきたいと思っております。苫小牧市外国人相談窓口への相談の特徴をまとめさせていただいております。市役所7階に設置してある窓口となっております。令和4年度の相談件数は前年比53件増の136件となっております。少しずつこちらの窓口も認知されて利用につながっているのではないかなと考えております。ただ、現在の開設時間というものが市役所の開庁時間に合わせていることもありまして、なかなか気軽に行くことができなかつたり、働く外国人や労働者の方の生の声を簡単に聞けない

という状況にもなっております。

続いて、令和5年度のこの事業と準備会議についての範囲について簡単に説明させていただきたいと思っております。

19ページ目をご覧ください。このページでは、この指針策定に向けた流れを示させていただいております。主な動きとして、令和5年度、今年度になりますけれども、多文化共生のビジョンの策定と外国人住民に対するアンケート調査、市民向けの意識調査などを実施したいと思っております。次年度の令和6年度には指針の策定を行って、7年度に指針の推進といった形で進めていきたいと考えております。

次、20ページ目をご覧ください。令和5年度の多文化共生に関する事業について示させていただいております。本日開催している準備会議におきましては、赤枠で示している指針策定に向けた事前整備事業を議論の範囲として皆様をお願いしたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

続いて、次の21ページ目をご覧ください。準備会議についてのスケジュールを、簡単ですけれども示させていただいております。この会議ですが、指針を策定するに当たり、準備内容や策定内容の協議を行う機関として様々な分野の方にお集まりいただきまして、年4回を開催する予定としております。スケジュール等は、本日を1回目の会議として、2回目に今日の議論を踏まえて、事務局が提示する苫小牧市の多文化共生のビジョン案というものと、市民アンケートについての案をお示ししたいと思っておりますので、議論いただきたいと考えております。3回目ですが、ビジョンの最終案、アンケートの中間報告、多文化共生に関する拠点について皆様に議論していただきたいと考えております。4回目は、アンケートの最終報告を実施して、事務局が提示する指針の骨子案について議論いただきたいと考えております。令和6年度の指針策定事業につなげることを今年度の出口として予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。

ただ、このスケジュールとか議題については、現時点の考え方と予定となっております。必要に応じて組み替えることも検討いたしますので、よろしくお願ひいたします。

次、22ページ目をご覧ください。苫小牧市多文化共生庁内連携会議について示しております。市役所内の連携組織として、年間で4回程度の会議や勉強会を予定しております。こちらで、進捗状況や情報共有の場としても活用していく予定となっております。本日も、この会議の前に、田村先生を講師に迎えて勉強会などを今終えたばかりとなっております。

次に、23ページ目をご覧ください。苫小牧市都市再生アドバイザーについて示しております。都市再生コンセプトプランの推進に向けて、多文化共生分野については、本日もお越しいただいている田村太郎先生に本市に支援をいただく有識者としてお願いしております。こちらに依頼事項にも記載しておりますが、この準備会議にも可能な限り参加していただく予定となっております。

次に、24、25ページ目になりますけれども、在住外国人向けアンケート、日本人の市民向けの意識調査について示しております。どちらも指針策定に向けて課題の抽出や基

礎的資料として活用していきたいと考えております。構成案やスケジュール案はお示ししていますけれども、効果的な調査になるように方法や内容については次回の準備会議でご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、26ページ目になりますけれども、多文化共生ビジョンの策定について示しております。ビジョンの策定とは、本市の基本的な考え方と方向性を示して外部に発信するものとし、市民や企業、学校など、全市民が今後の取組のベースになるものとして指針策定に先立ち策定したいと考えております。

また、内容については、10年先の苫小牧を見据えたビジョンにしたいと考えておまして、参考事例として、別途の資料で新潟県の長岡市、東京都立川市の資料を配付しております。こちら目を通しておいていただきたいと思っております。ボリューム感としてはA4、1枚程度で誰もが分かりやすい内容として、今年度の秋か冬には公表を目指していきたいと思っております。次回の2回目の会議には、事務局として案を提示して皆様に議論していただきたいと考えております。

次回の会議は、7月に開催を検討しております。アンケート案とかビジョン案につきましては、会議の前に事前に皆様に資料を配付できるような形にしたいと考えております。会議の前に可能であれば目を通していただけたらと考えておりますので、よろしくお願いいたします。簡単ですが、説明を終わらせていただきたいと思っております。以上です。  
○小田島座長 ありがとうございます。

それでは、今から1時間ちょっと、1の指針策定は各自でご確認いただきまして、2の苫小牧市の外国人の状況、それから、4年度に実施した調査・相談窓口から見る課題、この二つを併せて、皆様からご意見等、コメントをいただきたいと思っております。

それで、皆さん、私は特に初めてお会いする方が結構いらっしゃいますので、お名前とお顔をぜひ覚えたいと思っております。ですので、コメントの前に簡単に結構ですので、自己紹介お願いできればと思っております。二つに分けて今日は議論するので、人数でいきますと12名ぐらいになりますので、一人2分ちょっとで、まずは最初に自己紹介と外国人の状況、それから課題についてコメントいただければと思います。

このコメントですけども、次回に示されるビジョンのこの一部の肉づけになると思しますので、その辺も踏まえてご意見をいただけると助かります。進め方はよろしいですか。

じゃあ、先にお話しされたいという方、いらっしゃいますか。よろしいですか。

では、こちらのグエンさん、外国人住民代表の一人であるグエンさんから、この反時計回りでよろしいでしょうか。よろしいですか。グエンさん、いいですか。

○グエン委員 僕、グエン・バン・チョンと申します。ベトナムから来ました。日本に来て今年で14年になります。

最初来たときにも、今、苫小牧に一番多くいる技能実習生という形で3年間愛知県にいました。その後、また札幌で1年間半、日本語の学校、そして、苫小牧駒沢大学、今、北洋大学になっていますけど、4年間いました。卒業後、今、在職している日本ニューホラ

ンドという農業機械の会社に勤めています。僕の場合は、昔というか、最初に来たときの技能実習生の関係で日本が好きになって、また、もう一度日本に戻ってきたいということで、今ここにいることとなります。

そうですね、外国人で別の国で住むことに最初のところから言うと、まず、言語が一番問題、そして文化、多文化というものがすごく大変、慣れるまでには。昔、名古屋かな、愛知県にいる3年間で市で設定されたところ、ほぼ毎週末日本語の勉強と日本の方々と一緒に交流したりとかしていたことがあったので、日本語が好きになったりはしていたのですが、今回も外国人の代表としてこちらにすることが、自分の中ではとても光栄で感謝しています。そして、これから外国人の方々も多くいるかと思うのですが、その中、ベトナムの人もまた増えてくるかなと自分の中でも最近見た結果で結構なりそうなので、自分、ある程度日本語が分かっていて、日本の文化なども10年以上住んでいた中で結構分かっていたもので、ぜひ外国人だけじゃなくて、ベトナム人の人たちとか、言語をまだできていない、文化もまだ分かっていない、困ったときがあれば、自分もみんなの力になりたいし、こちらに、市役所のほうから何か提案、そして意見があれば、ぜひみんなに伝わるように中間の柱になればと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

○小田島座長 よろしく願いいたします。

○笠原委員 苫小牧市医師会の笠原と申します。よろしく願いいたします。

多文化共生指針ということで、まだちょっと僕も勉強不足で分からないこともあるのですが、医療の分野でいえば、少しずつですが、受診者の中に外国人の方が増えてきたというところで、やはり先ほどお話があったように文化の壁、言葉の壁というのが如実に表れているのだなという印象がまずございます。

そういったところで、アンケートもちらっとは読んでいるのですが、雇用側は日本語能力不足ですとか、そういったことが書いてあるのですが、僕も名古屋ですとか東京ですとか、そういった居住経験、短い人生の中でありまして、やっぱり都心部になると、2か国、3か国話す日本人の方も結構いらっしゃるし、海外に行っても、ドクターも海外の方と結婚されている人がいて、そういったところを見ると、国の中で2か国、3か国話される方がいるというところでいくと、僕も含めてほぼ日本語しか話せないというような人が日本人には多いのかなという印象はちょっとある。

そういったところで、今後ですが、そのまず言葉の壁ですね、そういったところをクリアするときには、翻訳機ですとか、ICTの技術を使った何かをするとか、あと、子供の頃から外国語に触れさせるような何か市としての施策といったところも準備できると理想かなとは思いますが、なので、ちょっとまだ勉強不足で、まだまだこれからやっていくうちにいろいろ僕の意見も変わるかもしれませんが、どうぞよろしく願いいたします。

○小田島座長 よろしく願いいたします。では、奥村学長。

○奥村委員 北洋大学の奥村です。よろしく願いいたします。



先ほど、グエンさんも北洋大学の前身である苫小牧の駒沢大学の出身ということで日本語がうまいなと思っておりました。北洋大学に来ていただければ、もっと上手になったんじゃないかなと。また遊びに来てください。

○グエン委員 はい、ありがとうございます。

○奥村委員 私は、私もと言ったほうがいいでしょうね。40年ぐらい教師をしておりまして、京都、大阪、長崎、高知、そして北海道と渡り歩くという環境で、この苫小牧市のような散在地域の在り方と、静岡とか、三重とか、大阪とか、集住地域との違いというもの、これは区別がある。それから、苫小牧市の特色、らしさといいますかね、そんなものを加味した今回の指針の作成というものができれば面白いのだろうなと思っています。

人生のというか、教員時代の半分は、前半は留学生教育、留学生に携わっていたのですが、後半の20年は教員養成、日本語教師をつくっておりました。そういう関係で、日本語教師の視点から言いますと、実は、現在もそうなのですけれども、日本語教員養成課程は対留学生なのです。34万人ぐらい留学生がいると思うのですが、それ以上に実習生の方が40万人以上いらっしゃるというふうなことを鑑みますと、教師は何もできない。もう一度言いますと、10万人計画とか30万人計画というふうなものを経て日本語教師養成、日本語教師が1985年からそういうコースができてきたのですが、留学生のための日本語教師の養成しかしてきませんでした。したがって、この留学生数より多い労働者は180万人ぐらいでしょうかね。そのうちの45万人以上の実習生の方々、それから国籍別の問題とか、いろんなものを誰も教える、それこそ指針というのでしょうか、それを持っておりません。

そんな反省も込めて、2019年に日本語教育推進法というものができて、全体像を考えてみませんかと一応政府が出してきましたが、ところが一方で、文化庁は生活者の日本語として、Can-doのB1を標準的な能力として要求するということを言っているのですね。B1といいますと中級です。これ、日本語の中級をマスターするのに大体1,000時間ぐらいかかるのではないかな。国籍とか、努力するとかしないとか、ロフとの関係とか、いろんなものがあると思うのですけれども、そういったところも加味して、さて、この苫小牧市はどの部分を到達目標として指針を策定していくのかみたいな課題というふうなところが、明確に出せていけるお手伝いできればと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

○小田島座長 ありがとうございます。それでは、五十嵐さん、お願いいたします。

○五十嵐委員 HISAE日本語学校の校長兼北海道多文化共生NETの代表をしております五十嵐と申します。どうぞよろしくお願い致します。

奥村先生と同じように日本語教育に携わってこれできました。また、現在は苫小牧市が推進している国際化推進事業を受託して、日々尽力させていただいております。私たちの学校には、海外から留学している学生だけではなくて、実は地域で暮らしている外国人の方も常に数名来ています。やっぱり地域で日本語を学びたくても、学ぶ機会また学ぶ場

所がないということで相談に来られるのですが、一方で日本語学校には一定程度学費がかかるので、予算が合わなくて諦めていく人たちも多く見かけます。地域日本語教育というものが苫小牧に限らず北海道でも空白地域が多いこと。全国的に見れば、集住地区のように外国人がいるところでは、もう既に先進的な教育がされているところもありますが、まだまだ、先ほどもあった教える側、担い手の不足、人材不足というのも大きな課題になっていると思います。

また、笠原さんが、医療の点で少し外国人が増えたというお話をされていましたがけれども、先日、うちの学校の学生が、小さなお子さんが熱を出して、吐いて止まらないうと。市内の病院に行きましたが、どこも診てくれず、5軒たらい回しにされたら泣きながら学校に連絡してきました。英語が話せても駄目、日本語が話せないと受けてくれないと言われたと本人が言っています。

私たちは日本人であっても、外国人であっても、やはり命の危機、生命の危機に携わる、関わるようなことがあったときには、やはり受け入れてほしいというふうに、学校だけではなく、活動を通して思っていますので、そういう視点からも多文化共生の指針が多くの人たちの安全、それから安心につながるように、また同時に日本語教育という意味では、地域の日本人の方々が単なるボランティアとしてではなくて、いろいろな形でここに携わっていきけるような方向性または拠点があるということがこの中でうたわれていくことを希望しながら会議に参加できればというふうに思っております。以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。では、次、阿部さん、お願いいたします。

○阿部委員 王子サーモンの阿部と申します。弊社は、7年ほど前からベトナムの技能実習生を受け入れ始めまして、現在では30名ほどの技能実習生と特定技能生がおります。昨年末からインドネシアの特定技能生の受入れも始めまして、今はインドネシア5名の特定技能生、昨年末には北洋大学の中国の留学生のインターンシップとかの受入れとかもしましたので、いつかベトナム、インドネシア、中国、日本とまさに多文化共生みたいなところでやっているところもあります。

課題としては、アンケートの結果の中にもありました、生活面へのフォロー、住居の確保であったり、あとは生活面のサポート、ごみ出しであったり、今年でいけば、冬の1月、2月とか、毎日のように水道管が凍結してしまっていて、水落としを教えるとか、そういったところが今は課題になってきております。そういったところの改善、提案を外国人を雇用している企業の代表としてできればいいかなと思っております。よろしく申し上げます。

○小田島座長 次は、ハニック・リリーさんですね。お願いします。

○ハニック 初めまして、未来想像戦略室のハニック・リリーと申します。アメリカのケンタッキー州出身で1年ぐらい苫小牧に住んでおります。よろしく申し上げます。

今日は幾つかの課題について話したいと思います。まず、現在、英語と中国語ができるスタッフがいるけれど、ベトナム語などの言語で対応ができる人がいません。これから外国人が増えるともっとスタッフが必要になると思います。

次、今の相談窓口は結構狭くて、たくさんのお客様が同時に来るときは困ります。そして、日本語を勉強したい人は多いですが、市役所で行われているサロンは多くの人々の勤務時間ぐらいしか開いてないので、できる場所はありません。また、日中働いている外国人のため、夜間や土日でも無料で日本語を勉強ができる場所が必要になると思います。

次、ALTたちが文化の違いで職場のコミュニティになじめないと言っていました。なので、日本の友達をつくれるイベントがあれば悩みの相談ができるようになります。

4点目、以前、日本語ができない家族の通訳として保育園のサポートをしたことがありました。保育園の書類には英語版がないので通訳がなければ大事な情報を理解できません。これは多くの企業や学校でも同じ問題があると思います。

最後に、個人的な話ですが、初めて苫小牧に来たとき、ごみの分別にとっても困りました。あと、苫小牧はベジタリアンやビーガンのレストランはほぼないので、あればとてもうれしいです。以上です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○小田島座長 ありがとうございます。では、次、王さん、お願いします。

○王 皆さん、こんにちは。私は王慶娟と申します。2007年3月末、中国の内モンゴルから参りまして、16年ずっと苫小牧に住んでいます。苫小牧は、私にとって第二ふるさとです。今は未来創造戦略室で任期付職員として勤めております。今日はどうぞよろしくお願ひいたします。

現在、苫小牧市は、外国人が年々増えてきている状況です。それに伴っていろいろな社会問題が出てくると思っています。私自身、日本に住んでからたくさん問題に出くわしましたが、今日は時間の関係上、幾つか課題を申し上げたいと思います。

初めに、外国人に働きやすい仕事環境の整備。国の文化や社会のルールの違い、外国人労働者の日本語能力不足で言いたいことが言えなくて、いじめられたり誤解されたりすることは少なくないのです。これを解消するには、例えば、外国人労働者がいる企業で定期的に多文化講座を行うことや、外国人労働者専用相談窓口の設置などご検討いただければと思います。

二つ目に、外国人の家族、子供へのサポートです。義務教育の年齢以外の子供たちにはサポートが必要だと思います。例えば、高校生は義務教育から外れているため、学校からサポートをもらえるわけではありません。ですから、進学のことや学習の進捗についても情報がなく、全部自分で調べなければなりません。このことは日本語能力の低い親や子供自身は大変なことです。

三つ目は、外国人が心理カウンセラーを受けられる場所の設置。病院のようなところではなく、気軽に行ける場所があるといいです。このことは外国人をリラックスさせ、心理的な病気を防ぐとともに犯罪の防止にもつながると思います。

最後に数点まとめて申し上げますが、医療通訳者の育成のため補助金支給、資格取得への援助、そのほか起業したい外国人に対しての無料講座の開催、支援などです。

以上、外国人の立場から意見を述べさせていただきました。ありがとうございます。

○小田島座長 ありがとうございます。次に、出入国在留管理局の小林さん。お願いいたします。

○小林委員（代理） 札幌出入国在留管理局の小林と申します。どうぞよろしくお願いたします。本日、受入環境担当の若山のほうが別の業務になりまして、私が代理で出席してまいりました。どうぞよろしくお願いたします。

私は、苫小牧港湾合同庁舎の苫小牧分室で勤務しております。苫小牧分室では、在留する外国人の方の在留資格の更新や変更または永住申請等、各手続の担当をしており、また、同時に苫小牧港、そしてあと室蘭港の船舶の業務を担当しております。

今回のような多文化共生という形での会議ということで、道内ではなかなか事例がないと伺っておりますので、今後とも情報共有等をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

○小田島座長 それでは、高田さん、お願いたします。

○高田委員 若草町内会会長の高田と申します。どうぞよろしくお願いたします。

仕事柄、室蘭にあります北斗文化学園の出先機関であります、自衛隊が入っているビルの5階にあるのですが、北斗文化アカデミーのセンター長をしていますけれども、今回はいろんな情報はありますけれども、多文化共生の部分で地域に外国人の方たちがお住まいになったときに何が地域住民の方たちが不安になるのかという部分の視点を中心に意見なり、いろんな形の中でお話をさせていただければと思います。

以前、うちの町内会の役員の方たちとお話を直接する機会があったのですが、要するに何かあったらどこに相談に行くのかということなのですね。先ほど言いましたけれども、こちらの中のほう、土日休みということで、ほかに相談するところがない。それから、生活支援をするということは、365日24時間体制で、やはりお互い安心で安全で生活できる環境づくりをどのようにつくっていくのかということが、一番大切ではないかと思うのですよ。そこら辺、結構時間があるようで全くないので、特に住民の方たちにこれからのビジョンという部分をどのように周知を徹底して、そして理解をしてもらうのかということをもう本当に時間をかけて分かりやすく、そして、どのような組織から流していくのかということ具体的に詰めていただきたいと思います。以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。千寺丸さん、お願いたします。

○千寺丸委員 苫小牧市社会福祉協議会の千寺丸と申します。よろしくお願いたします。

先ほどの資料、アンケート結果なのですが、ちょっと読んでいるのを聞いていて、非常に高齢者の困り事とすごく似ているなというふうに思いました。本当にごみの分別の話も先ほど出てきたのですが、少し認知症に入ってくると、このごみの分別だけでも生活のリズムが狂って、一気に生活が悪くなっていくというようなことも私たちも見ております。

また、相談窓口についても、いろんな障害を持ったお子様方の対応とかも、今させていただいているのですが、そういうところの相談窓口が非常に少ないというところと、

何かしら今SNSを使った情報発信、相談窓口というものも求められているというところで、うちのほうもそういうところも対応していきたいというふうに今思っているところが非常に似ているかなというふうに思っています。

あと、災害時には災害ボランティアセンターが社協で立ち上がるというところもあって、ボランティアセンターのほうに外国人の言葉を使える方がどのぐらいいるのかなということは今来る直前に聞いたのですが、ほとんどいないと。中国語ができる方が1名、英語ができる方が数名いるというような状況でありました。そういうところも含めて、いろんな地域課題、地域福祉の部分、観点からもいろいろ国際化を図っていかなければならないかなというふうに感じています。

これからこの会議に参加させていただいて、いろんな手段、方法、皆様からご教授いただければなと思っております。よろしく願いいたします。

○小田島座長 瀬川さん、お願いいたします。

○瀬川委員 苫小牧市小・中学校長会を代表させていただいてこの会に参加させていただいております。北光小学校校長の瀬川恵といいます。どうぞよろしくお願いいたします。

先日、事務局のほうから、この会のコンセプト等をお聞きしまして、大変すばらしいなと思いました。義務教育の立場からこの会に参加させていただいていろいろ課題とかをお話しさせていただいて、策定されたこの指針が出来上がったときには、それを通して義務教育、児童生徒がいろんな他文化に触れる場面を与えていただけるのかなという感じで思っております。

現状なのですけれども、じゃあ、現在この多文化についてどういう課題を受けているかという部分については、私自身、まず、苫小牧市内で約30年間、一般教員も含めて教員をやっているのですが、直接、外国国籍の児童を担任したとか、そういうことはありません。ただ、仲間の教員と話している中では、やはりそういう児童が入ってきたとき、英語圏はまだいいのだけれども、英語圏以外の児童が入学してきたときには大変困るんだという話は聞いていました。その困るという部分については、子供同士でなかなか言語は大事なのですけれども、何とかなるのです、身ぶり手ぶりで。一番困るのが、その保護者の方、学校が保護者の方と連絡調整をするとき、くだらない話になるかもしれないのですが、普通に小学校が遠足に行くときにいろんな準備あります。敷物とか、水筒とか、お弁当とか、おやつは300円以内とか、そういうものの説明がやはり保護者の方に言語を通して説明するという部分では大変苦労するのだという話は聞いています。

じゃあ、そういうときにどんなふうに工夫しているかという、先ほどお話もあつたのですが、市内の教育委員会のほうにはALTの方が来ています。その方々はほとんど英語を主にお話しする方なのですが、英語以外の言語も話す方がいますので、その方に来ていただいてサポートしてもらおうという部分があります。

あと、この多文化、文化だけではなく、人権、自分とは違う人権、また、家族とは違う考え方、そういうことに出会ったときにどう対応していくか。そして、その違いを認め合

うということが大変重要なのかなと思っています。そういう環境づくりを今後進めていくために、この指針がぜひ義務教育のほうに意義を持たせていただければなと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

○小田島座長 ありがとうございます。皆さん、大変ご協力的で時間も大分余裕を持って審議ができそうです。

ちょっと私のほうから一言簡単に申し上げさせていただきます。

最初にお話しいただいたグエンさんですね。実習生で日本に来て、その後、日本語を札幌で学んで、駒大のほうで勉強して、そして、苫小牧のほうに定着されているというのは、非常によい、理想的な外国人の方の定着かなというふうに思います。ですので、グエンさんみたいな方が今後どんどんどんどん増えていくような、そういう事例がいっぱい出ればいいかなと思いますし、そのような自治体に苫小牧さんがなっていただくような意味合いを込めて、この委員会をできるだけ有意義なものにしていきたいなというふうに思います。

それから、五十嵐さんのほうからコメントありました安全・安心につながる体制づくり、私どものHIECCには、北海道外国人相談センターも設置しておりまして、もう様々な相談が寄せられます。医療のことからDVのことですとか、結婚されている方は離婚とか、ちょっとつらい話とかそういうのも時々寄せられるのですが、医療のことも結構あって、英語が話せる病院を紹介してくださいですとか、そういう問合せが一定数来ております。ですので、そういう環境づくり、簡単ではないかもしれませんが、少しずつつくっていくことが必要かなというふうに思いました。

あと、せっかく田村さんがいらっしゃいますので、ちょっと一旦、聞いた中でコメントいただければと思います。

○田村氏 ありがとうございます。2時間ぐらいしゃべる。

○小田島座長 すみません、2分でお願いします。

○田村氏 ありがとうございます。

先ほど総務省のプランの説明を映していただいたのですけれども、2006年に最初のが出まして、2020年に改定をしています。これが今出ているのが、まさにその改訂版が右に出ていますけれども、①がコミュニケーション支援で、②が生活支援になっています。この二つは、外国人を支援の対象として書いているもの。日本で、地域で暮らしていく中でどんな支援が必要なのかというのが書かれているのですが、③と④は外国人も地域の担い手として活躍するようなことが書かれているのと、今回もう皆さんから結構出ていて、これはすばらしいなと思ったのは、相互理解ですね。日本人の方にどう理解してもらうのか、日本の地域の方にも安心・安全といいますか、外国人の方が増える中で私たちの地域全体が安心・安全なものになっていくのだという、そういう意識を持ってもらうことが大事だというご発言が出ていたので、実はそこが非常に重要なかなと思います。

私も、毎年こういった指針やプランづくりの自治体の委員を大体二つか三つやらせてもらっていて、今年も幾つか関わっておりますが、もちろん①、②はとても大事ですけ

れど、③、④のほうですね、これから苫小牧市はどんな市になっていくのかということと、そこに住民の合意も得ながら外国人とともに地域をつくっていくということがとても大事なので、今回指針策定に当たってビジョンを今年つくるといふことですから、ビジョンのところは、特に地域住民の理解といいますか、苫小牧市がこれから多文化共生に向かっていくのだなということの合意形成が図れるような、そういうメッセージをしっかりと出すというのが、今々すごく大事なことなのだというふうに皆様のご発言を聞いていてすごく実感しましたし、それは本当に重要なことだなど、今、私も思っています。

これ以上しゃべると、本当に2時間しゃべる・・・終わります。

○小田島座長 ありがとうございます。あと、ちょっと道内の状況を簡単に補足で情報をお伝えしたいと思います。人数を出してもらっていいですか。これでいいです。

苫小牧市の外国人の人数1,036人、道内で6番目ということで、でも、率にすると0.62というところで、この数字をどう捉えるかということなのですね。上位の割合の1、2、3、4、5、これらはリゾート施設を有した自治体になります。この調査をやるのが、大体冬場とかにやりますので、この数字の意味合いとしては、特定技能という在留資格でワーキングホリデーとかで季節的に働きに来ている外国人の方が非常に多い自治体になります。ですので、雪が解けると結構、ばあっと帰っていく。率のほうもちょっと下がるというのが特徴的かなと思います。

ただし、倶知安とかニセコとか、通年で外国人の方の雇用を一生懸命やっているところがあって、この間倶知安のほうに外国人の移動相談会に行ってきたのですが、非常にたくさん外国人の方、相談にいらっしゃいました。中にはそこで起業、会社を起こしたいですとか、そういう方の相談もありましたし、あとは、在留、夏は仕事が変わりますということで、外国人にどうしても付きまとうのは在留資格になりますので、スキーのインストラクターとして来て、雪がなくなったので違う仕事になっていると。といったときには在留資格をまた変更しなきゃいけない。それができるのかどうなのか、そういう人もいます。

苫小牧市の在留資格、技能実習生が多いということですので、あとは、3年ないし5年でどんどん外国人の方が替わっていくと思います。その方は一旦帰国してしまうと、技能実習という資格ではもう来られなくなりますので、ほかの在留資格でまた来ていただけるようなそういう環境づくりですとか、キャリアプランみたいなものを苫小牧市としてつくっていくようなことができれば、さらに外国人の方が来て働いていただける方が増えていくのかなと思いました。すみません、以上です。ありがとうございます。

何か皆さんのコメントとかに対して質問ですとかはありますか。よろしいですか。

特になければ、次の議題の4になります。令和5年度事業と準備会議の範囲についてということで、先ほど事務局のほうからご説明がありました、年間4回ということでそれぞれ目的を持って会議が開かれるのですが、これらについてコメントがあればお願いしたいと思います。ぜひ話したいという方はいらっしゃらないですか。今度は、じゃあ、逆回りということで、瀬川さんのほうからお願いいたします。

○瀬川委員 この流れでできたらすばらしいなと思うのですが、先ほど言ったように、義務教育として何かできることがあればどんどんやっていきたいなと思いますので、例えばですけど、アンケートの対象者が小学生や中学生またはその保護者ということであれば、そういうものについてもどんどんやっていきますので言ってください。

○小田島座長 ありがとうございます。それでは、千寺丸さん、お願いいたします。

○千寺丸委員 スケジュールが決まっているという中での会議運営になってくると思いますが、いろんな意見をまとめていただいて、私たちも何か提案できることをこれから持ち帰って探してみたいなと思っております。

なかなか社会福祉の分野で外国人というと、今、介護職が入ってくる、入ってこないというようなことをいろいろと言われているのですが、なかなか現場のほうからの話というのは聞こえてきてないというのが現状なので、そういうところも含めていろんな、地域に出向いたときには地域の方の外国人の状況とかも聞き出して、何かしら反映させていけるような意見を聞いていければなというふうに思っております。よろしく申し上げます。

○小田島座長 ありがとうございます。では、高田さん、お願いいたします。

○高田委員 まず、前提として外国人を企業、事業所等で採用される場合は、基本的に日本人と同じ考え方というのが大前提にあると思いますので、そこが少しちょっと変ないびつな考え方があると、その問題が出てくるということですね。それとやはり地域生活というか、地域でお住まいになる方たちは、先ほどもお話しさせてもらいましたが、受け入れる日本人地域住民と、そこでお住まいになるそれぞれの外国籍の方で、多文化共生社会と言葉で言うのは非常にあれなのですが、そこには宗教的な問題があったり、日本人特有の郷に入れば郷に従うとかというのは全く通用しませんので、そこら辺も日本人もやっぱり理解をしっかりとしてもらわないと難しいのかなというのがちょっと心配ですので、そこら辺は周知をしっかりと、いい面とそれから理解はしっかりとしなくちゃいけないというものを着実に進めていっていただきたいなというふうに思っています。

○小田島座長 ありがとうございます。小林さん、お願いいたします。

○小林委員（代理） 特段はないのですが、特に特定技能の関係で、やはり去年ぐらいから申請のほう伸びてきておまして、今、先ほどおっしゃったように介護職のほうも見込める分野になっております。14分類いろいろ分野ありますけども、ほかの分野のほうも苦小牧市のほうでも受入れが恐らくされてくるのではないかとということで、その辺を注視していく必要があると思われま。

○小田島座長 ありがとうございます。王さん。

○王 私は、実はアンケートのことがちょっと心配です。心配事は、苦小牧市在住の外国住民はアンケートの回答はどのくらい回収できるかです。このことはちょっと心配です。アンケート、ちょっと苦手です。

○小田島座長 回収が心配というのは、答えてくれるかどうかということですか。

○王 そうです。ちょっと三、四年前に1回アンケート調査、市より送られましたけれど



も、回答数はちょっと少なかったかなと考えておりました、何か今度はやり方の中で改善させて、ちょっと何かご検討いただければと思っています。

○小田島座長 そうですね、言葉もそうですし。

○王 そうですね。

○小田島座長 本当に紙で送って、そのまま回答して送り返してもらえるかどうかというのちょっと分からないですしね。例えば携帯でできたり、そんなやり方とかもいろいろ意見があればいいかなと思います。いいですか、何かあとコメントは大丈夫ですか。

じゃあ、次は、ハニックさん、お願いします。

○ハニック これから多言語でいろいろな情報を市民に提供したいとは思っております。最近皆さんの生活ガイドブックを作り終えましたけど、これからも前よりもっとたくさんの方の言語で情報を提供したいと思います。

あと、アンケートもとてもいいことだと思いますけど、やっぱり外国人の市民と話して、インタビューとか面接がいいのかなと思います。

最後に、例えば外国人のお話広場みたいなイベントを開催したらとてもよいことだと思います。以上です。

○小田島座長 インタビューというのは、実際に会って話をしましょうということですか。

○ハニック はい、実際に会って話します。

○小田島座長 分かりました。ありがとうございます。阿部さん、お願いいたします。

○阿部委員 会社で働いていただける外国籍の方々とも話をし、また、会社全体でも意見を聴取して進めていければいいなと思っています。

○小田島座長 それでは、五十嵐さん。

○五十嵐委員 ちょっとこの流れの右側にある、今、先ほどおっしゃった国際化推進事業なのですけれども、事業をどんなふうに位置づけていくのかというのは、この流れのどこに入ってくるのですかね。

○小田島座長 国際化推進事業の流れとは。

○五十嵐委員 国際化推進事業というのは、このビジョンの策定の。ここら辺の検討をどうするかというのは、また次回教えていただくことになるのかなと思います。以上です。

○小田島座長 分かりました。それでは、奥村さん、お願いいたします。

○奥村委員 今度は7月、10月、1月ですかね、というふうなところであると思うのですが、これ自体はよいのかなと思うのですが、それぞれの方がそれぞれの問題意識や課題をお持ちだと思うのですが、次回に向けて、例えばコンセプトですね、目標として苦小牧はどっちを向いていくのかということを決めておいたほうが設定しやすい、課題が出しやすい、問題提起がしやすいのかもしれないという気もしております。

ですから、例えば最終的には来てよかった苦小牧、住んでよかった苦小牧というふうなことになるのだと思うのですが、これらをどういう形でまとめていくのかとか、今もお話がありましたけど、若い世代をターゲットにするのか、これから増える高齢化社会をター

ゲットにするのか、外国人の方の交流会も大事だと思いますので、どの辺を中心に考えるのかみたいな一応の目安があると持っていきやすいかな。ばらばらにまた出てくると、広がるのだけでも、それをどういうふうに集約していくというのが結構厄介なので、最初からある程度集約して絞っていくのもいかなものですかというふうに思いました。

○小田島座長 ありがとうございます。では、笠原さん。

○笠原委員 専門会議とか、そういったところで、意見というか、先ほど話があったように、医療の部分で受け入れてもらえないですとか、言葉の壁、医療の分野では、なかなかやはり医療通訳ですね、そういった人も重要になってくるのかなというのは、全くこれは個人的なあれなんですけども、症状に対する言葉の違いですよ。

これはいろんな分野に通用するのかもしれないですけども、海外の経済ニュースとかを見ると、海外だとイエス・オア・ノーなんですけども、日本は異文化なのか、イエス、ノーの間を取ったり、いろいろすると思うのですよね。そういったところで全住民の中で日本人側の意識調査、それと、外国人住民アンケートというところでは如実に差が出るのかなというのがちょっと印象的にあります。

なので、そういった部分が日本側、受け入れる側がある程度しっかりした指針を示さないと駄目かなと考えます。これが、そういった医療側、受ける側としてもやはり何かそういう医療通訳の部分の医療機関へのそういう従事する人への教育とか、そういったところで、先ほど高田さんからもお話あった宗教的なものというのもやはり医療に関係してくる部分がありますので、そういったところでしっかり日本人側の意識調査というのは重要なかなと考えています。僕のほうからは以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。それでは、最後、グエンさん、お願いします。

○グエン委員 自分で特にさっきも言っていたことと今のいろいろな方の意見の中で、そうですね、外国人、僕たちと一緒に近くに住んでいる日本人の方々、文化という多文化、壁とか、特にそれですよ。だって、僕の国の人から見ると、僕、正直、ベトナムの人は、うるさいですよ、生活の中では、正直うるさいですよ。だから、周りの近所の方々にはよく迷惑をかけているのは多いのです。恐らく苫小牧市内でも近所の方、警察呼んで、何回か呼んできてとかがあるかと思うのです。

そういったときの大事なものは、警察だけだったら、よくあるのは、警察が来ていても、また何か注意して、終わって、また次回起こっていて、また、より仲よくなるどころじゃなくて、悪い方向になるのが多いですよ。

なので、そういったときの雇用、使っている会社のほうの対応とか、また、会社も会社のところがあるので、連絡をまたどっちか登録支援機関・管理団体機関に連絡したり、そっちから通訳とかを入れて注意するのが多いですけど、その代わりにまたこちらのほうも一部解決できるようになればなど。そのときですね。

ただ、市役所のほうは平日しか動いてなくて、多くのね。警察以外はもう全部平日だけ。さっき言った医療、医療機関とかでもそうです。僕も実際は家族がここにいるので、自分

は何とか解決できるのだけど、ほかの人から見たら、結構つらいところがあるのですよね。そういったときに平日以外の時間の対応できる場所があればと思います。以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。

すみません、ちょっと私の興味で聞くのですが、全国の医師会とかの救急当番をやっている病院がありますよね。救急センターみたいなどころ、そういうところに通訳を配置しているような地域はありますか。

○笠原委員 多分、場所、急病の中でというのはないのですが、どこか、都道府県単位でそういった翻訳ツール、i P a dですとか、そういったものを入れているところはあると思いますし、それこそセコ町のクリニックは外国人の通訳の方を入れています。

○小田島座長 そうですね。

○笠原委員 医師会のほうも急病センター、今はやっているのですが、やはり外国人の方が来られるということで、やはり言葉が通じないという部分と、あと、症状の受け止めが日本人の方とはやっぱり違うので、そこはやっぱり壁になっているかなというのはあるので、やはり通訳ですとか、そういったものも入れるべきなのか、はたまた、そういう翻訳ツールのi P a dとか、そういうもので打ってもらって、返してもらおうとか、それが果たして直訳で正しいかどうかというのは、また別問題になると思うのですが、そういった課題もこれから出てくるだろうなど。

○小田島座長 参考までに、倶知安町に厚生病院がありますよね。あそこは、倶知安の公費で通訳を嘱託という形で半年間たしか置いているみたいですね。

○笠原委員 でも、ちょっと倶知安町だと10%ぐらいになっているので、外国人の比率が。やはり僕も観光で行っても、歩いていても普通に外国人の方が歩くような状態にはなっていると思うので、そういった通訳の方、やはり苫小牧の場合、まだ日に来るか来ないか分からないという状況でその雇用をするとすると、また違うのかなと。だから、そのこと、医療従事者の英会話教室ですとか、そういったものを企画してやるかとか、いろんな考え方をしているのかなと思います。とにかく触れる、日頃から触れる、その言葉に触れるというのが少しは大事かなと思います。

○小田島座長 ありがとうございます。

そうですね、今回アンケートですとか、そういう住民からの意見を調査されるということですので、非常にいい機会、外国人住民の方がどんなことを困っているかとか、どんなことを要望されているかとか、非常にいい機会ですので、あとは日本人、受入れ側のほうがどのように考えているかとか、そういうのを知るいい機会ですので、いい設問をつくっていただければと。何かこれを絶対に質問に入れてほしいとか、そういうのがもしあれば、ご意見をいただければと思います。ここは質問で聞いてほしいというようなことはありますか。もしあれば、後ほど事務局のほうへお伝えください。では、田村さん、何か。

○田村氏 ありがとうございます。そうですね、やっぱり接点をどうつくっていくか、外国人住民と日本人住民、接点をどうつくっていくかというところが大きな課題なのかなと

いうふうに思います。接点がなければいほどお互いに誤解や偏見が大きくなりがちですので、そこをどう埋めていくかというところですね。

今、技能実習生が全国的に増えていて、どうしても地域とも接点が薄くなりがちです。そこはやっぱりよくよく聞いてみると、マイナスのスパイラルに入ってしまったいて、企業のヒアリングからの抜粋にもありますけれど、外国人の人を雇用したいので住まいを確保したいけど、行くと、貸してもらえない。仕方がないので自分ところで手配した、どこかに一軒家を借りて、そこに住む。それを地域の人には知らない。あれは、何だろうなと思って見ているうちに、ちょっと夜道に自転車で当たったりすると、外国人は怖いみたいなの話になって、ますます接点が遠のいてしまうので、できるだけ早い段階で対等な関係をつくるというのはすごく大事なのです。

出会う場がないまま時間がたつと、ますますお互いの疑心暗鬼が大きくなってしまいますので、そこをつくらなきゃいけない。でも、それが、つくろうとすると、結局嫌だと言われるので、だったらそれが本当に距離が離れていってしまいます。

そこは、これもやっぱり企業のアンケートがありますけど、やっぱり市でそういう交流できる場を提供してもらえるとありがたいという声があります。それは恐らく住民側も同じじゃないかなと思います。なかなか、地域で外国人住民と日本人住民の接点をつくるのがそう簡単ではないので、そういった機会をしっかりとつくるということだと思います。私自身は、ほかの地域でそういった場をつくって見たら、もうあつという間に相互理解が進んだ例をたくさん知っていますので、そういう機会を早くつくるということがとても大事だと思いますね。

やっぱり事業者側からは、今日、今回来られていますけれども、恐らくその住まいの支援と、あと日本語の支援ですね。これはやっぱりほかの地域でも二つ大きく出てきますので、逆に言うと、住まいの確保が難しいということと、会社の中だけで日本語をやるのも難しいという状況になるので、そこをどうつくっていくのか。もちろん市役所だけでできることは限界があるので、住民が参加するような機会づくり、これが大事かと思います。

そのときの住民も、もちろん日本人住民が活躍する場づくりを例えばボランティアセンターを社協でやってもらうということも大事なのですが、そこに外国人の住民も活躍できる機会をちゃんとつくるということですね。

防災なんかもそうですけれども、外国人の場合、情報さえもらえれば、みんな体力はありますから、むしろ助ける側に回ることはできますので、地域が高齢化していく中では、外国人住民というのは、どちらかという助ける側に回ってもらえる力強い存在ではあります。

あるいは、医療通訳も学校でのいろんな言葉をどうサポートするかというところも、外国人の方でかつて子育てをしていた方に関わってもらえれば、自分のときの経験もお話しできますから心強いと思います。医療通訳も同じですね。もちろん通訳としての能力が求められることはありますが、経験者として語れる部分あると思いますね。

ですから、住民が活躍できる苦小牧というのをしっかり入れていただいて、そのときの住民は日本人が何もボランティアで外国人を助けるだけじゃなくて、外国人住民も地域に参加をする。それも外国人のために参加するというだけでなく、地域全体に利益になるような、地域がこれからいろんな課題に直面する中で外国人の人がその解決に当たるような、そういう形を整えていかれるといいと思いますし、そういうことに関連したアンケート項目があるといいかな。外国人の方にも何か地域で参加したいことはないかと、自分の力で何か強みを持って活躍できる場があるとしたら何ですかみたいな項目が入っているといいのかな。どちらかが助ける、助けられるという関係じゃなくて、お互いに地域に参加していくような、そういう流れがあるといいなと思います。

あともう一点、割とコロナでオンラインの環境がすごく整ってきたので、例えば通訳なんか、別にブラジルからオンラインで入れるようになったのです。ここに住んでいない人が苦小牧のために何か活躍できるということも実はあるので、何かそういったオンラインのツールであったり、あるいはAIの翻訳も相当賢くなってきて、何か四、五年前、絶対に使えないと思っていたのですが、あれは脳みが1個だから、どんどん賢くなるのですよね。割と使えるかなと思います。

そういうのは積極的に使いつつ、でも、やっぱりここで暮らしている人が核になって動いてくればオンラインのツールなんかも使えますし、苦小牧以外の地域に住んでいる人にも苦小牧に関わってもらおうというような流れができると、さらに新しい指針なりビジョンなりが示せるのではないかなというふうに思いました。以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。

大体今日の議題はこの辺りなのですが、何か皆様のほうから、コメント等があればお願いしたいと思います。よろしいですか。それでは、事務局のほうに戻します。

○成田室長 皆様、ありがとうございました。次回の会議についてでございますけども、先ほどありましたとおり、今、7月下旬頃を予定しております、改めまして委員の皆様にご連絡させていただきたいと思っております。また、資料につきましても、できるだけ早い日に送付させていただきます。今後この準備会議を進めるに当たりまして、委員の皆様からも都度ご意見をいただきながら進めさせていただきたいと思っておりますので、今後ともご協力のほどお願いいたします。

以上をもちまして、第1回苦小牧市多文化共生指針策定準備会議を閉会させていただきます。皆様、どうも本日はありがとうございました。